

産学連携による社会スタディの構想

平成24年3月7日

1. 社会スタディの必要性

成長社会から低成長社会、成熟社会へと変化する一方、新興国による成長が目覚ましい。日本は強みであるモノ作りにこだわるあまり、世界の潮流を見失った。新興国の成長を取り込む中で、それぞれの国・社会に支持されるモノ作り、それを利用する仕組み作りを一緒に提供するイノベーションが求められている。他方、世界は一国の利益を追求する時代から、世界の国々との連携・協調の中で共生する時代に移行しつつある。

そのような変化の中で、日本の未来に立ち向かう志のある若者が希望と夢を自らが描けるきっかけになるよう、世界の動き、産業界の将来像、社会的役割、今後の課題などの業界情報を分かりやすく説明し、国・社会の発展にICT（情報コミュニケーション技術）が原動力になっていくことに気づかせる機会を提供する。

2. 社会スタディのイメージ

産業界から、成熟社会における新たな価値創造の可能性、ICTを活用する産業界の将来性、社会的役割、雇用の実態などの現場情報を提示し、会場で意見交流することで気づきを持たせ、早い段階から目的意識をもって学びに取り組めるよう意欲を喚起する。また、教員にも参加を求め、産業界の将来像や課題について理解の共有を図る。会場に参加できない学生、教員に対して情報を提供できるよう、スタディの状況を学生の個人情報に配慮して収録し、後日、インターネットで公表する。

3. 社会スタディと教育機関の関係

日本の未来を切り拓く志のある高校生、大学生を対象に支援するので、大学、高校の教育課程への組み入れは考えていない。学びの目的意識を持たせ、日本のICT力を高めることに興味を抱かせることを目指すので、大学ではICT関連教育、キャリア形成教育の導入、高校では情報教育の充実と振興普及につながる。

4. 学習プログラムのイメージ

現在考えているイメージを紹介するもので、具体的には本日での協議を踏まえ、今後委員会で検討する。

- ① 8月又は3月の特定日に、東京を会場に定員を設けて無料で実施する。
- ② 事前に希望する大学生、高校生をインターネットで公募する。その際、日本の未来に立ち向かう志のある若者を選定するため、小論文を提出させる。
- ③ 講義を中心に進めるが、学生からの質問、意見を携帯端末を介してスクリーンに掲示し、必要に応じて産業界関係者と学生との意見交流を行う。
 - ※ 産業技術会議等の有識者、金融業界、医療業界、組み込み業界、エネルギー・環境業界、情報関連業界などから、ICTが産業技術のイノベーションの核となること、新しい成長分野の創造に不可欠な存在であることをマクロ的に説明する。
 - ※ 世界の中での日本の産業界の役割、ICTが成長力の原動力となることについて会場の学生と意見交流を行う。
 - ※ 以上の課程を通じて、働くことの目的について気づきが得られるようにする。
- ④ 24年度は準備を行い、25年度に実施する。
- ⑤ 録画・配信することで、社会の動向との関連性の中での自主学習が普及する。